

息切れ 残る靴下のゴム痕 疲れやすさ…原因は心不全



「少し動いただけで息切れがする」「疲れやすさ」「足の靴下のゴムの痕がなかなか消えない」――。こういった症状が続くようなら心不全かもしれない。早めの対策が健康的な長寿につながる可能性は高い。

心不全は「心臓の収縮や拡張がうまくできなくなる」状態。症状は、息切れ、呼吸困難、疲労感、足のむくみなど。最初のうちは「年のせいで」と思ったり、喫煙者の「収縮や拡張ができなくなった」と勘違いしがち。心不全は、肺や足に水分がたまる。心不全は「心臓の収縮や拡張がうまくできなくなる」状態。症状は、息切れ、呼吸困難、疲労感、足のむくみなど。最初のうちは「年のせいで」と思ったり、喫煙者の「収縮や拡張ができなくなった」と勘違いしがち。心不全は、肺や足に水分がたまる。

予後が悪いタイプが急増

「心不全は、心臓の収縮や拡張がうまくできなくなる」状態。症状は、息切れ、呼吸困難、疲労感、足のむくみなど。最初のうちは「年のせいで」と思ったり、喫煙者の「収縮や拡張ができなくなった」と勘違いしがち。心不全は、肺や足に水分がたまる。心不全は「心臓の収縮や拡張がうまくできなくなる」状態。症状は、息切れ、呼吸困難、疲労感、足のむくみなど。最初のうちは「年のせいで」と思ったり、喫煙者の「収縮や拡張ができなくなった」と勘違いしがち。心不全は、肺や足に水分がたまる。

が高くない。循環器病研究力が低下し、心臓にたまった振興財団の調査では「言葉の認知度は高い(97.7%)」が、症状まで正確に理解している人は27.3%という結果が出ている。心不全について正しく知るべき理由――それは、心不全は対策が遅れると、命に関わる病気だからだ。

命を落とさないために知っておくべきこと

「心臓の病気による2大死」ハフペフは高齢者に多く、因は心不全と心筋梗塞で、我が国で急増しています。心不全は対策が遅れると、命に関わる病気だからだ。心不全は「心臓の収縮や拡張がうまくできなくなる」状態。症状は、息切れ、呼吸困難、疲労感、足のむくみなど。最初のうちは「年のせいで」と思ったり、喫煙者の「収縮や拡張ができなくなった」と勘違いしがち。心不全は、肺や足に水分がたまる。

「MRA」MRAは、心不全増悪・進行の主要な原因となる受容体(MR)の過剰活性化を抑制する。市販されているMRAは数種類あり、そのうち「ネブレン」という薬が唯一、ハフペフに投与を考慮すべき、カイトラインで書かれています(細川医師)

「心不全の末期になると打つ手がかなり限られる。その前に、正しい知識で対策を」(細川医師)

【最新】**依存症事情**
「昔前は依存症といえ、アルコール、覚醒剤、ギャンブル(パチンコや競馬、競輪など)というものが定番でした。ところが、最近の依存症にはさまざまなタイプがあり、一見して依存症と思えないようなものも出てきました。依存症治療の第一人者として知られる大石雅之(大石クリニック院長)がこう解説します。

「近年は依存症が多様化しています。たとえば、ネット、ゲーム、オンラインDVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

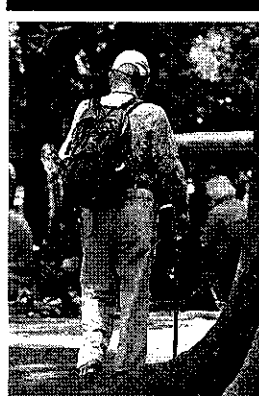
「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」



「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」

「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」



「DVです。従来は「男女間のもつれ」と捉えられがちでしたが、その背景には性依存以外の要因があることが分かってきた」